

令和7年度 第1回飯島町総合教育会議 会議録

- 1 開催日時 令和7年2月12日(木)
開会 午前10時30分 閉会 午前11時50分
- 2 開催場所 西庁舎 営農研修室
- 3 議 題
(1) 教育行政に関する懇談
(2) その他
- 4 出席又は欠席した構成員氏名
出席構成員
町 長 唐澤 隆
教 育 長 片桐 健
同 職 務 代 理 竹内 榮一
教 育 委 員 橋場 沙弓
教 育 委 員 川村 みゆき
教 育 委 員 鈴木 むつみ
- 5 町・教育委員会事務局職員の職氏名
副 町 長 宮下 寛
教 育 次 長 藤木 真由美
学校教育係長 伊井島 伸也
学校給食担当係長 蟹沢 京子
子育て支援担当幹 岡野 裕子
生涯学習係長 丸山 浩隆
スポーツ担当係長 松下 いづみ
指 導 主 事 大野 俊浩
生涯学習係 大沢 容子
- 6 傍 聴 者 長野日報新聞社 勝村 誠之
- 7 議事の詳細 別紙のとおり

令和7年度 第1回飯島町総合教育会議

開 会

令和8年2月12日 午前10時30分

1 開会

藤木教育次長
10:30~

皆さん改めましてこんにちは。ただいまから令和7年度第1回飯島町総合教育会議を開催いたします。委員の皆様におかれましては、前段の定例教育委員会に引き続いての会議となりますがよろしくお願いいたします。進行は私教育次長が務めさせていただきます。出席者につきましては、既にお配りさせていただいた資料のとおりです。会議は概ね一時間を予定しておりますので良い懇談ができますようよろしくお願いいたします。

それでは、開会に先立ちまして唐澤町長からご挨拶を申し上げます。

唐澤町長

改めまして、おはようございます。令和7年度の総合教育会議ということで委員の皆さんには大変お忙しいところ出席いただきまして誠にありがとうございます。教育を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあります。特に飯島町におきましては少子高齢化が顕著な状況です。昨年の子どもの出生が非常に少ない。今後学校運営していくにも、将来的な見通しが非常に厳しい状況でもあります。そのような中で、今後の飯島町の教育をどのように進めていくかをこのような場でしっかりと議論させていただきながら、将来に向けて子供たちが飯島町で健やかに育っていただけますような会議にしていきたいと思っております。どうか忌憚のないご意見を頂ければと思いますので、よろしくお願いいたします。

藤木教育次長

ありがとうございました。

それでは早速レジメに沿って進めてまいります。

着座にて失礼いたします。資料3の総合教育会議についてです。1枚おめくりいただき、資料3をお願いします。こちらは飯島町総合教育会議の設置要綱となっております。既にご存じのことと思っておりますが会議は地方教育行政の組織および運営に関する法律の規定に基づき、飯島町の教育に資するため設置しております。なおこの法律に基づいて全ての地方自治体に設置されているものでございます。

任務につきましては、第2条に規定されておりますけれども町長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、飯島町の教育の課題や、目指す姿を共有し、一層の教育行政を推進するために行っております。

構成員については、町長及び教育委員会で構成されております。また、要綱をご覧いただければと思います。総合教育会議については以上でございます。

続いて4の協議事項教育行政に関する懇談に入っております。資料について

は、もう一枚おめくりいただきまして資料の4をご覧ください。
それでは早速課題をお願いします。

竹内代理

私からは、学校教育における児童生徒の学習に取り組む意欲について議題に挙げたいと思います。

小中学校をはじめ高校もそうですけれども、児童生徒が自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視して教育していかなければならないと思っております。社会に出て本格的に社会人生活を始めるということになればそこでさらに勉強が始まるということです。学校時代につけた学習意欲というものが継続していないとうまくやっていけないのかなと思っております。また、今求められている生涯学習の基盤、個人の学習意欲を育成することが非常に重要であると考えております。では、どうしたらその意欲を高める教育ができるようになるか、各学校の先生方はそれぞれ工夫をこらしてやっていると思いますが、町長さんはじめ理事者の方々がどのようなお考えをもっておられるのかお聞かせ願えればありがたいなと思っております。

唐澤町長

子供たちの学習を取り巻く環境は、いろいろな課題があると思います。勉強がわからないとか目標がきちんと定まらない、あるいは、無力感みたいな心理的社会的要因、もう一つは生活習慣の問題。夜遅くなったりして、朝起きられない。町では、早寝早起き朝ご飯を推奨していますがなかなかできないということから、学校に来て眠かったり、無力感があったりといった生活習慣的な課題があると思います。

もう一つは将来への不安みたいなもの、夢があったりあるいは夢が持てなかったりという社会的要因があると思います。

社会の皆さん、地域の皆さん、親もそうですけれども子供たちの行動を認知する、子供のやり方をきちんと認めていくところも少し欠けているのかなと思っております。

危惧するところは、子供たちの体が少し変化してきているんじゃないか、いろいろな社会的要因が関係して体がうまく育っていない、あるいは思考に少し支障が出てきていると思います。タブレット、スマホ、ゲームなどの影響で若年性遠視が増えてきているということで、調整する筋力をすごく使わなければならない、そうすると知覚過敏のようになって疲れやすく特に ADHD の皆さんもその辺を誤解されやすく、症状がある事によって学習障害があるといわれるお子さんもいる。身体的なものが学習行動にも影響していると思います。

やっぱりフィンランドの教育を見習っていくべきじゃないかと思っております。いろいろな課題もあります。PISAの結果がだいぶ下がってきてしまったことで

国でもいろいろ取組んでいるようですがやっぱりフィンランドの教育は非常に素晴らしい。伊那市がフィンランドのある都市と姉妹提携してしましてその中で書かれていますが、フィンランドは平らな森林が多くそこから得られる森の学習は非常に特色ある学習教育で、森は自分自身でいられる場所と考えている。森を通じて自分自身を大切にする教育が行われていると言われていています。個人の能力とか、能力に応じた自主性また共同というものを非常に重視されている。森と触れ合うことによっていろいろなストレスを減らす良い教育が出来ているんじゃないかと思います。飯島町の環境は非常にいいところもありますので、しっかりと自分を大切に学習をしていくことが重要だと思います。それと、保育園の時から進めていただいているが、自ら考え自ら行動する目標を立ててやっていくのが一番重要ではないか、教育面でも誰一人取り残さない教育が必要だと思っています。

基礎的学習の力をつけていくことも大事ですが、地域の皆さんと一緒に地域の課題を学習するのも重要ではないかと思います。総合学習の時間等で基礎学力の勉強と共に地域課題を解決していくような学習を組み合わせることで意欲を高める一つの要因になっていくのかなと自分なりに考えています。いろんな人と関わりながらいろんなことを学んでいく、人間としての基本をきちんとやっていくことが重要かなと思います。

詰め込み教育が問題になっていますが、教育の量もある程度は大事だと思いますがやっぱり質、そこをうまく組み合わせて基礎的な学習をしていくことが大事だと思っています。

竹内代理

その通り学校生活、基本的習慣が身につけていないのかなと思います。

また、国からの要求が多すぎて逆に学習意欲を低下させてしまう要因がある、どんなところかと思われますか。

唐澤町長

ゲームや SNS が家庭や学校の中で占める割合が大きくなってきていますのでその辺がかなり問題と見えます。SNS は小学校でも半分くらい、中学校では 3 時間以上ゲームをやる子供たちを含めると 12% 以上いるという調査結果も出ています。いろいろな人との触れ合いや、勉強の時間を取られてしまう、不登校もかなり影響していると聞いていますので課題かなと思います。

フランスやイタリアでは使用に制限をかけているようですので、やはり社会的に制限をかけていく必要があるかなと思います。

自分の話になりますが、東京で暮らす孫が 3 年前はタブレットを持ってきましたが今は持ってきません。時間も 1 時間と決まっているようで、かなり危機感を持って制限されているのかと思います。このままいくと学習意欲低下の大きな原

因になってくると思います。

それから、休みでも外遊びをする子供が全くいません。家の中でゲームをしているかと思うのですが、やっぱり外で遊ぶということも大事だと思いますのでそういう機会を増やしていくことが重要じゃないかと思います。

宮下副町長

今、ゲームもオンラインでできる。ゲームしながら話せるしネットにも繋がる。テレビをつければYouTube・マイクラフトなどどんどん出てくる。やはりそういうことに時間を割くのはまずい、ある程度制限をかけるのは今の日本ではむずかしいので、先生が制限をかけるしかないのかなと思います。ただ、親たちもそういう世代でPTAでも会議をせずグループを作ってその中で全部やる、資料も写メで送られてくる、そういう時代になっていますので慣れてきてしまう。人と話すこと、外で遊ぶことで得られるものとだんだん違ってるんだと思います。

ある程度は制限しないとだめだと思うし詰め込み教育などもある。英語も小学校の内はまだ楽しいだろうけど中学になるとまた変わってくる。詰め込みは良くないと思っていて解らないところを自ら考えてやる。例えば、漢字がわからない宿題が出たら答を見て何回か書いてみる、算数とか国語にしてもわからないところは何回かやっているとわかるようになる。多分時間がないんだろうなと思います。上からやるべきことがいっぱいくるし先生たちもやらなきゃいけないしある程度バランスを取らないと子供たちも先生も荷重でやってるんだろうなと思います。その辺のところは学校の中では大変難しいところもある、単元はここまで終わらせると決まっていると思うのでちょっと大変だなと思います。

これをするにはこうしたらいいなと意識的に出てくるのは中学生くらいだからあまり早く意識付けをしてもとは思いますが。

竹内代理

いろいろな課題はあると思いますが、いい教育が出来たらと思います。

藤木教育次長

この課題に対して他の委員さん方、何かコメントがあればお願いします。

鈴木委員

今共働きの親が増えていて、多分親御さんもそういう世代とは言いますが子どもを把握しきれていないと思われます。市町村で時間規制をしているところがありましたね。

唐澤町長

タブレットの使用についてはある程度制限出来ていくかと思います。

片桐教育長

タブレットは一応時間制限をかけていますが、スマホはフリーです。みんなが立ち止まって考えるために、条例を作ってみんなで作っていきましようとするの

も一つだと思います。

唐澤町長

先日オーストラリアの子供さんたちと交流しましたが、16歳までSNS全面禁止で本当に困っているようでした。ある程度はこうしようという決まりを作っていく必要はあるのかなと思います。

藤木教育次長

この課題については以上とさせていただいて二つ目の課題へいきます。

橋場委員

高校入学時の支援についてです。

年長さんにはランドセルを、小学6年生には今年から上履きをプレゼントして下さるといことで、去年の懇談時にも高校生に何か支援をお願いしましたが通学支援、定期券補助というお話頂いたと思うが進捗状況をお聞かせください。

唐澤町長

高校生の定期券補助はまだ先の検討事項になっておりまして、高校入学する時に少し支援をしていこうと検討させていただいています。

片桐教育長

高校へ行かない子もいる、電車を使わない子もいる、という中でどう支援したらいいのか、今後中学卒業に当たって何らかの財政支援をしていこうと検討しているところです。

唐澤町長

町に高校がないので高校生が卒業した皆さんと懇談する場がない。直接子供さんたちとお話をしてどういうことに困っているか、どんな目標があるのか聞いてみたいと思っている。そういう仕組みを作っていきたいと思います。

片桐教育長

つなぐ会をきっかけに町に住む高校生と懇談ができればと思います。

藤木教育次長

続いて3番目の懇談内容に移ります。

川村委員

小中学校の今後の在り方について、主に小学校の在り方について述べさせていただきます。昨年度この会議でも統合の話が出ていました、その後のことをお聞きしようと思ったのですが、先ほどの定例教育委員会で学校運営協議会ができてそういう方向を話し合うとお聞きしましたので、これを前提に述べたいと思います。

子供への教育効果、町の財政面を考えると早めに統合を考えた方が良いのではないかと思います。公立小学校の学級定員は35人ですが、長野県の場合30人を超える場合独自の対応があるので実質30人。新一年生が25人になるという話も聞いています。学級定員が少なくなれば負担が減る、配置される教員も増えると

ころも出てくる、そうすると公務分担が減って子供に接する時間が増えるのでより厚い支援ができ、学力・指導面で教育効果が高まるのは確かだといえます

定員は少なければいいというわけではなく、ある程度の人数でグループ学習をし発表しあう、チームスポーツをする、児童会の委員会で引っ張っていく経験をするというようなことも必要だと考えると、20人定員かなと思います。

就学児童生徒数の表を見ますと、七久保小の2年3年は10人、来年度の1年生が25人、令和9年度は9人になりそれ以降も少ないです。飯小は令和11年度29人その後かなり減ります。ぜひとも、1年でも早く、遅くても4年後には統合する方向で動いていくことが良いのではと思います。それにより小学校に関わる予算が少なくなり、保育士や学童クラブの指導員不足解消に充てるなど財政面からも統合の方が良いと思います。

ただ、七久保小学校は地域の皆さんにすごく大事にされていることがわかるので、早めに話題に挙げて町や子供にとってのメリットデメリットを知っていただき納得できるような形で考える機会をとっていただければと思います。

唐澤町長

やっぱり20人というのは自分も感じているところです。非常に厳しい状況ではありますが今年から協議会もできますのでそこで話し合い、まずは保育園をどうしていくかから始まると思います。3園のバランスを考えながら子供主体で考えて進めたいと思います。他の市町村でもWEBで他の学校と一緒に勉強したり交流したりしていますし、ハイブリットな学習活動も大事かと思しますので、将来的にどうしたら良いか皆さんで理解し合いながら進めていこうと思います。

校舎の問題もあります。中川村の54億以上の金額になると思いますので設備の面も皆さんと話し合いたいと思います。

川村委員

学校運営協議会がうまく回って周りの人たちに共感してもらい次に進めたらいいかなと思います。

藤木教育次長

せっかくの機会ですので、委員の皆様何かありましたらお願いします。

竹内代理

難しい話だと思うんですが、校区を緩めにするのは可能なのでしょうか

唐澤町長

そこに住んでいればいいんだよ、と少し緩めの考え方ができるかどうか課題として考えます。

橋場委員

PTAの役員を決めるのも大変です。役員を何回もやらなくてはならない状況になっている。子供たちだけの問題ではないと思います。

片桐教育長

都道府県によっては、日本の PTA から脱退しているところもあったりする。組織の在り方、負担感を考えていく必要があると思います。住まいの町内移動で区域外通学の申請を出していただいていることも自由に選択できる形を考えていく必要があるかなと考えます。同じ自治会でも違う学校へ行く自治会の行事等で学校別のくくりには課題があるかなとも思います。

鈴木委員

本郷保育園統合時にも反対する意見が多かったが、今になってみるとメリットがあると思う。ゆっくり話し合いを重ねて進めることが必要だと思います。

藤木教育次長

次年度から学校運営協議会で未来の学校の在り方について協議されることになっているので定例会でも話題にできたらと思います。

片桐教育長

子供たちにとってどういう教育がいいか、子供たちがどういう感覚でいるのかぜひ聞いてみたいと思います。

唐澤町長

昭和 40 年代後半に日曾利分校、50 年代初めに田切分校、本郷分校が廃止された。自分は田切分校だったんですけど、統合したときは分校だっていう感じで扱われた。一緒になるときは、子供たちの気持ちを考えないといけないと感じます。

藤木教育次長

最後の課題に参ります。

鈴木委員

フィンランドに次いで先進国がデジタル教育の見直しがされている。一人一台のタブレットで時間制限されているという事でしたが、日本でも見直しの時期が来ていると思います。

唐澤町長

ユネスコのグローバル教育でモニタリングレポートを出してしまして、ICT 教育が子供たちの人間関係、学習能力に影響があると出ています。そういうデータをきちんと示しながらみんなで考えていく必要があると思います。完全に紙に戻す事はもうできないので、うまく使いながらが重要かと思います。

片桐教育長

アナログを意識した学校での取り組みが必要だと思います。先生たちは、タブレットを使っていれば学習していると誤解している、やはり制限的なことをどこかで考えてもらうため投げかけが必要なのかもしれません。子供たちも感じている子はいると思います。

竹内代理

デジタル化が進んでいるので使わないわけにはいかない。そう言いつつも昔ながらのやり方で書いてみる、辞書を引いて覚えていくという、そういう収穫も大きいかなと思います。弊害があるなら戻ってみる。試行錯誤しながらやっていくのがいいかなと思います。

橋場委員

タブレット学習の漢字や英語リスニングなど良いところと使えないところがある。スマホの SNS や LINE にしても使い分けが大事なんだと思いますが、家庭ではなかなか制限しきれないのも事実だと思います。

川村委員

オンラインやタブレット授業を始めるようになって、極端に書く力が低くなったり時間もかかると聞きます。学校でも紙に書かせる時間をとっていかないと感じます。

伊井島係長

保育園の子も小学1年生の子もタブレットやスマホを触っています。あまり制限していないので気を付けたいと思います。

岡野係長

親が携帯見ていて面白くて、子供だけ早く寝なさいと言っても無理。子供の学習意欲を高めるには、親と一緒に変わらなければいけないと感じます。

丸山係長

デジタル AI を使いこなせないといけないのでそれは大事。外で遊ぶことも大事。それを親がしなくなったので地域で面倒をみるという役割が社会教育、講座・学びの場の提供を意識していこうと思います。

松下係長

体を動かして何かする。外に出ていろんな人と接するという楽しさを与える機会を作れたらなと思います。

大野指導主事

未来塾でもタブレットを使いますが、英文をタブレットに話して日本語になったのを写しているので意味がない、使い分けが大事だと思います。学級の人数が減って4、5人のクラスでもちゃんと育った子供達もいる。人数が少なくてもいけるんじゃないかとも思います。

鈴木委員

授業参観へ行っても画面を見て授業していることが多い。子供たちの顔を見て指導してほしい。デジタルの良いところ悪いところを先生方に考えてもらいながら授業を進めるのも大事かなと思います。

片桐教育長

学習意欲を高めることはすごく大事で、そのためには先生たちの授業の工夫も

あるが、友達との関わり、地域の人たちのいろんな価値観にふれて大きくなるということ。子供たちが学べる環境を私たちはどう作っていったら良いか、アナログの部分も大切にして進んでいったらいいのかなと思います。

藤木教育次長

今後さらなる教育行政の向上に向けて、委員の皆様にはご協力をいただきながら、またご意見等もいただきながら進めてまいりたいと思います。
それでは以上で、第1回今年度の飯島町総合教育会議を閉じたいと思います。
ありがとうございました。

以上の議事録は、教育委員会事務局教育次長 藤木 真由美の記載したものであるが、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

飯島町長 唐澤 隆

飯島町教育長 片桐 健

同職務代理 竹内 栄一

飯島町教育委員 橋場 沙弓

飯島町教育委員 川村 みゆき

飯島町教育委員 鈴木 むつみ